

## 現代文化表現学科見聞推奨作品等一覧 23 年秋

(1)

1-1 ; 政岡憲三監督『くもとちゅうりっぷ』(1943) DVD,Blu-ray などで見られます。

「日本アニメーションの父」と呼ばれる人物が戦前に作った、当時のディズニーアニメにも匹敵するクオリティを持つ美しい傑作アニメです。

1-2 ; ユーリ・ノルシュテイン監督『話の話 (Tale of Tales)』(1979) DVD,Blu-ray などで見られます。

ロシアの世界的なアニメーション作家の代表作で、20 世紀アニメーションの最高傑作の一つ。独特の世界をぜひ体験してほしいです。

1-3 ; 庵野秀明監督『新世紀エヴァンゲリオン』(1995-1996) DVD,Blu-ray、Netflix などで見られます。

日本アニメ史に残る超有名作のみならず、90 年代以降、様々なカルチャーに影響を与え続ける名作。「現代文化表現」を知るなら絶対に一度は見るべき！※

\*\*\*\*\*

(2)

2-1 ; 『東京都庭園美術館の建築&インテリア』(東京都目黒区)

アール・デコ様式の日本での事例。様式研究やデザイン史の視点で現地を観察・体感してほしい。

2-2 ; 『大谷石地下採掘場跡の空間+鹿沼のまち』(栃木県鹿沼市)

採掘後の空間と採掘された石の生活利用の事例。人々の生活・文化の視点で現地を観察・体感してほしい。

2-3 ; 『太田市美術館図書館の建物』(群馬県太田市)

建設計画時から関わる人々の表現といえる事例。使用も含めた現代表現という視点で現地を観察・体感してほしい。

\*\*\*\*\*

(3)

**3-1 ; 水野英子『復刻版 ファイヤー!』**(文藝春秋 23年ぶりの紙媒体での復刻!)  
 後続のマンガ家たちに多大な影響を与えた「女手塚」水野英子の代表作。アメリカのロック文化を舞台に若者たちの激しい青春を描いた、50年以上前の少女マンガの伝説的作品です。

**3-2 ; ヤマシタトモコ『違国日記』**(祥伝社)

人と関わるのが苦手な少女小説家が、嫌っていた姉の娘と同居することに。他人との“わかりあえなさ”、各々が自分の足で生きていくことの“諦めなさ”を、鋭く温かく描いています。

**3-3 ; 「アフリカマンガ展」**10月26日～2024年2月18日 / 京都国際マンガミュージアム

日本ではほとんど知る機会がなかった、アフリカのマンガ。BD、アメリカン・コミックス、日本とも関わるアフリカマンガ文化の企画展が、京都MMで初開催です。

**3-4 ; 萩尾望都『トーマの心臓』**(小学館フラワーコミックス、愛蔵版、文庫版など多数の版あり)

ドイツのギムナジウム(全寮制男子校)を舞台に起こる、少年たちの愛と罪と救済の物語。1970年代、そして少女マンガの傑作です。

**3-5 ; よしながふみ『大奥』**(白泉社)

男性だけがかかる病により世の中が一変した江戸の社会。ジェンダーの揺らぎと固定観念をあぶりだす、歴史SFミステリーです。

\*\*\*\*\*

(4)

**4-1 ; ロバート・ゼメキス監督『フォレスト・ガンプ/一期一会』**

CGの導入によってヒューマンドラマの表現の幅を広げた作品です。アメリカの近代史を垣間見ることできます。

**4-2 ; 押井守監督『GHOST IN THE SHELL / 攻殻機動隊』**

海外からも高い評価を得たアニメーション作品。人間の脳とネットが直接繋がる近未来を描いています。

**4-3 ; ウォシャウスキー兄弟監督『マトリックス』**

革新的な映像表現が話題となった作品です。CGだけでなくワイヤーアクションやバレットタイムなども使われています。

**4-4 ; ビートルズ『The Beatles 1962-1966』**

J-POP のみならず様々な音楽ジャンルに大きな影響を与えたビートルズのベストアルバムです。1967-1970 と併せて必聴。

\*\*\*\*\*

(5)

**5-1 ; 「パリ ポンピドゥ・センター キュビズム展——美の革命、ピカソ、ブラックからドローネー、シャガールへ」**

国立西洋美術館（上野）、2023年10月3日～2024年1月24日

キュビズムの歴史を語る上で欠くことのできない貴重な作品が多数来日し、そのうち50点以上が日本初出品となります。キュビズムを正面から取り上げたおよそ50年ぶりの展覧会です。

**5-2 ; 「デイヴィッド・ホックニー展」**

東京都現代美術館（清澄白河）、2023年7月15日～11月5日

絵画、ドローイング、版画、写真、舞台芸術といった分野で多彩な作品を発表し続けてきたイギリスの現代画家ホックニーの27年ぶりの大規模な個展です。

**5-3 ; 「葉山館20周年記念 100年前の未来：移動するモダニズム 1920-1930」展**

神奈川県立近代美術館（葉山）、2023年10月7日～2024年1月28日

跡見学園の創始者跡見花蹊先生の養孫で20世紀初頭の英国前衛画家と親交を結んだ久米民十郎の作品も展示されます。

**5-4 ; 「テート美術館展 光——ターナー、印象派から現代へ」展**

国立新美術館（六本木）、2023年7月12日～10月2日

英国・テート美術館のコレクションより「光」をテーマに作品を厳選し、18世紀末から現代までの約200年間におよぶアーティストたちの独創的な創作の軌跡に注目する企画です。

\*\*\*\*\*

(6)

**6-1 ; YouTube『コム デ ギャルソン川久保玲 2020 貴重なインタビュー』**

なぜ、川久保玲が世界一のファッションデザイナーと評価されるのか。その理由の一部が理解できる「まさに貴重な」映像。

**6-2 ; 映画『ココ・アヴァン・シャネル』(2009年フランス映画)**

同名小説を原作としたデザイナー、ココ・シャネルの伝記映画。ファッションの変遷、女性の地位とファッションの関係も描かれている。

**6-3 ; 映画『ファッションが教えてくれること』(2009)**

『プラダを着た悪魔』のモデルでもあるアメリカのファッション誌『VOGUE』の編集長アナ・ウインターのドキュメンタリー映画。ファッション界とアメリカの『VOGUE』との関係や雑誌がどのように作られるかも学べる。

**6-4 ; 角川武蔵野ミュージアム**

新座の隣の駅、東所沢にあるミュージアム。見どころはいくつかあるが、中でもいちばんは「マンガ・ラノベ図書館」。ここは世界で最も多くの「エンタメ小説に出会える場所」であり、ライトノベルと児童書やコミックなど合わせて約37,000冊が集まる。

\*\*\*\*\*

(7)

**7-1 ; Louis Armstrong, *Louis Armstrong Hot Five and Sevens* (1925-1930)**

(邦タイトル、ルイ・アームストロング『ホットファイヴ&セヴンズ』)

「ジス・イズ・ジャズ」の名札が似合う音楽。CDだと4枚組。ストリーミング、MP3も有り。YouTubeで1曲なら、“West End Blues”。

**7-2 ; Miles Davis, *Kind of Blue* (1959) (邦タイトル、マイルス・デイヴィス『カインド・オブ・ブルー』)**

日本も含めて、世界中で最も長く売れ続けているジャズのアルバムの1つ。CD、ストリーミング、MP3、レコード盤、YouTube、すべて有り。

**7-3 ; Stevie Wonder, *Songs in the Key of Life* (1976) (邦タイトル、スティーヴィー・ワンダー『キー・オブ・ライフ』)**

有名な曲・アルバムのとて多いミュージシャンですが、1つのアルバムを選んで聴いてみる機会を持つのも悪くないです。CD、ストリーミング、MP3、レコード盤、YouTube、すべて有り。

**7-4 ; バズ・ラーマン監督『エルヴィス』(2022)**

「エルヴィスは二十世紀最大の文化的な影響力だ。ピカソ？ 違う。エルヴィスは全てにビートを与えた。そして、全てが変わったのだよ」というのは、レナード・バーンスタインの有名な言葉です。

**7-5 ; チャーリー・エーハーン監督『ワイルド・スタイル』(1983)**

ヒップホップ・カルチャーが、ここから、こうやって始まったということがよくわかります。現在にいたるヒップホップのスターたちが影響を受けたヒップホップ黎明期を描いた作品。

\*\*\*\*\*

(8)

**8-1 ; 宝塚歌劇花組公演 オペレッタ・ジャパネスク『鴛鴦(おしどり) 歌合戦』**

2023年9月2日~10月8日/東京宝塚劇場

「鴛鴦歌合戦」(1939年公開、マキノ正博監督、片岡千恵蔵主演)は日本映画史にその名を刻む滅茶苦茶楽しい名作オペレッタ映画。着物姿で歌って踊る、日本には珍しいミュージカル映画の元祖といってもよい作品。小柳奈穂子脚本・演出で宝塚が初の舞台化。絶対に映画を見てからご覧ください。

**8-2 ; ミュージカル『のだめカンタービレ』**

2023年10月3日~10月29日/シアタークリエ

日本中にクラシックブームを巻き起こした大人気コミック『のだめカンタービレ』初のミュージカル化。落ちこぼれだけど天才的なピアノの才能をもつ音大生・“のだめ”こと野田恵が主人公の、クラシック音楽ラブコメディ。“のだめ”役に上野樹里、千秋真一役に三浦宏規。

**8-3 ; 太陽劇団 (テアトル・デュ・ソレイユ)『金夢島 L'ÎLE D'OR Kanemu-Jima』**

2023年10月20日~10月26日/東京芸術劇場プレイハウス

1964年にフランスで旗揚げされた太陽劇団の22年ぶり来日公演。2019年に京都賞を受賞した劇団の主宰者アリアヌ・ムヌーシュキンが、能、歌舞伎など日本文化へのオマージュを込めた2021年の新作。コロナ禍の延期を受けて本年日本初演となる。

**8-4 ; 舞台『笑の大学』**

2024年2月8日~3月5日/パルコ劇場

三谷幸喜による二人芝居。厳格な検閲官と喜劇作家の間で起きた、上演許可を巡る7日間の攻防を描いた傑作喜劇。不朽の名作が25年ぶりに再演されるとあって必見の舞台。

**8-5 ; 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館**

日本で唯一の演劇専門博物館。図書資料、紙資料、博物、映像、音源と多種多様な貴重資料を所蔵。常設展、企画展ほかイベントも多数。開館時間に注意。

2023年9月25日~2024年1月31日の期間は、上記太陽劇団の来日記念展示あり。

\*\*\*\*\*

(9)

9-1 ; 「ヌーヴェル・ヴァーグ (フランス、Nouvelle Vague)」、 「アメリカン・ニューシネマ (American New Wave)」 の映画作品 (ジャン＝リュック・ゴダール監督『気狂いピエロ』1965、デニス・ホッパー監督『イージー・ライダー』1969 など)。

1950年代から1970年代にかけてフランス、アメリカで製作された反体制的、対抗文化的映画作品群。

9-2 ; アンビエント・ミュージック (環境音楽、ambient music) 関連の音楽作品 (ブライアン・イーノ『Ambient 1: Music for Airports』1978、エリック・サティ『ジムノペディ』1888 など)。

1960年代から1970年代にかけて誕生し確立された、既存の音楽とは一線を画す音楽ジャンル。

9-3 ; NHK『世界サブカルチャー史 欲望の系譜』(シーズン1. アメリカ編、2. ヨーロッパ編、3. 日本編)

アメリカ合衆国、ヨーロッパ、日本における、戦後のサブカルチャー、ポピュラーカルチャーの全体像が見えてくる。現在もBSなどで放映中。

9-4 ; 「横浜美術館」(閉館中、2024年3月再開予定)、「(市立)宇都宮美術館」の現代アートに関連する収蔵作品 (アンディ・ウォーホル『キャンベル・スープII』1969 横浜、ルネ・マグリット『大家族』1963 宇都宮、など)。

欧米の現代アート/コンテンポラリー・アート関連の作品を比較的多く収蔵している美術館 (展示の有無、要確認)。ポンピドー・センター (パリ)、テート・モダン (ロンドン)、マグリット美術館 (ブリュッセル) などへもどうぞ!

\*\*\*\*\*

(10)

10-1 ; チャーリー・チャップリン監督『キッド』(1921)

笑ったり怒ったり泣いたり、人間の感情をセリフなしのサイレント映画で存分に表現し、それから1世紀のすべての映画の源泉となる至高の一作、必見。DVD購入簡単。

10-2 ; ロマン・クロイター監督『グレン・グールド 27歳の記憶』(1959)

ピアニスト、グールド氏の演奏収録シーン+インタビューの構成60分。ジャンルに関わらず音楽とは何か、演奏とは何かが分かる。廃盤なので中古市場にあり。

**10-3：『十日町市博物館』と『越後妻有里山現代美術館 MonET』（新潟県十日町市）**

前者の博物館では5000年前の国宝縄文土器を、後者の美術館では5年前の現代美術を展示。時を隔てた人間の表現意思とその形を同時に体験できる。遠い町でも行く価値あり。

**10-4：ミロス・フォアマン監督『アマデウス』（1984）**

モーツァルトの伝記に関心あるという方は少ないと思います が 音楽映画としての出来栄も最高レベル 共感しながら150分の映画を見て聴くことができます。

**10-5：『長泉院附属現代彫刻美術館』（東京都目黒区中目黒4-12-18）**

芸術作品を映像や画像で見ることに慣れている方はぜひとも彫刻を「体験」してください。写真などで絵画を見てもDVDで映画を見ても「ほんもの」の体験との違いがピンとこないかもしれませんが、彫刻は写真で見ても意味ゼロ、本物をながめると全く違うメッセージが読み取れます。こちらの美術館は目黒駅から行けます、都内です（開館時間が独特なので（ちようせんいんびじゅつかん）で検索してください。現代日本の作家さんの作品を多数見学できます。ここで作品体験に興味持てたら・・・

**10-6：『箱根彫刻の森美術館』（神奈川県足柄下郡箱根町）**で海外作品にも触れてください。